



ほんものを たべよう

提出日	6/	火	水	木	金
	2	3	4	5	
配達日	6/	火	水	木	金
	9	10	11	12	
翌々週分配達日	6/	火	水	木	金
	16	17	18	19	

2026.6月2週号

オルターの提案

- 本当に安全な食べものを手渡すために
- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
 - 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
 - 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
 - プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

生活用品

肌を洗うと同時に、保湿、保護も実現 しっとり、つるつるの健康肌に

「超分子技術」を利用した究極の化粧石けん

(株)構造機能科学研究所

文責 西川 榮郎 (オルター代表)

RIM超分子スキンケア

けいはんな学研都市 (正式名称：関西文化学術研究都市) に所在する (株) 構造機能科学研究所、鈴木正夫代表・理学博士は、アレルギーの起点となる“経皮感作”に早くから注目し、世界で初めて「皮脂膜」を守る発想から生まれた「RIM超分子スキンケア」を開発。皮膚が本来備えているスキンバリア「皮脂膜」の機能と成分に着目し、「超分子技術」を利用した究極の化粧石けん「RIMソープ」とスキンケアオイル「RIMエモール」を完成しました。

赤ちゃんからご高齢の方まで安心して使える低刺激設計で、お肌の弱い方や肌トラブルでお悩みの方々にも寄り添ってきました。

RIM (リム) は、構造機能科学研究所の超分子スキンケア化粧品のブランド名です。

英語の社名「Research Institute of Biological Materials」のアンダーラインした3文字を組み合わせています。

洗浄と保湿、保護が同時に

「RIMソープ」はお肌を洗って潤し、美肌を作るふしぎな泡クリーム石けんです。独自の超分子技術によって、汚れはしっかり落としながらも皮脂膜を補い整えて、肌の洗浄と保護・保湿・エモリエント (皮膚柔軟化) を同時に実現します。

これまでの石けん等洗浄料は、「皮膚表面の汚れや化粧等の油性物質を洗い流すこと」を目的として開発されてきました。結果として、皮脂膜も「汚れと



同じ油分”として洗い流されてしまうことは常識とされており、皮脂膜もきれいに落とせるものが良い洗浄料とされてきました。このため、洗顔した後のつっぱりやカサつきを引き起こしてしまいます。皮脂膜を失った肌は急速に乾燥するために、洗顔後には化粧水や乳液、クリーム、オイル等の保湿・保護剤が不可欠でした。しかし、使用する保湿・保護剤は皮膚本来の物質ではないため、特に肌の弱い方には負担になる一面がありました。

ところが、この「RIMソープ」で洗うと、洗った後の肌はつるつるで、しっとりしているのです。

お肌の洗浄と同時に皮脂を整え、保護・保湿・エモリエント (皮膚の柔軟化) ・痒みの鎮静もできて、優れたスキンケア機能を実現しています。

ダブルの保湿効果

RIMソープとRIMエモールは目的によってそれぞれ単独で用いても良いのですが、「RIMソープで洗って、RIMエモールをぬる」コンビネーションでご使用いただきますとダブルの保護・保湿効果で肌本来のバリア機能をしっかり支えます。

「RIMソープ」は肌質や使い方によって保湿効果は異なりますが、「RIMエモール」とのダブルの使用で、肌の保湿効果は約15%アップします (ノーマル肌、前腕内側、肌水分で40%→55%)。

「RIMエモール」は皮脂膜の成分に近似した脂質をベースにしたエモリエント (皮膚柔軟化) 保湿オイルです。肌に害のある添加剤の使用はありません。

生命系の普遍的な現象 「超分子」

この「RIMソープ」と「RIMエモール」開発の科学・技術の基礎とした「超分子」とは、分子間相互作用に



構造機能科学研究所の鈴木 正夫代表 (理学博士)

より、自発的に分子が集まって秩序ある構造を形成する性質 (自己組織化能) を有する分子集合体のことです。分子の集合や秩序構造形成の駆動力になっているのが、分子間力 (水素結合、ファンデルワールス力など) です。

この「超分子」という概念はジャン＝マリー・レーン (Jean-Marie Lehn) によって提唱され、1987年にノーベル化学賞を受賞しています。

この「超分子」は自然界、生命界での普遍的な現象と考えられています。

鈴木正夫理学博士は、「RIMソープ」の成分を皮脂膜の成分であるオレイン酸を主にすることで、この「超分子技術」を活かし、洗浄と同時に皮脂膜を整えることに成功したのです。

経皮感作を防ぐ皮脂膜の大切さ

脂質の生理作用と分子科学 (脂質生理医科学) が専門だった鈴木正夫理学博士が「RIMソープ」を開発するきっかけは、アレルギーの経皮感作を予見したことからでした。1975年にアレルギーに関するアラキドン酸カスケードの文献に触れたことと、息子さんがアトピー性皮膚炎を発症したことが重なり、以来アレルギーをライフワークにされてきました。

皮膚経由で抗原 (アレルゲン) の情報が体内の免疫を担当する細胞に伝えられ、アレルギー反応が惹起されることから、皮膚のバリアである皮脂膜を整えることの重要さに気づかれたわけです。

そこで、肌の汚れは落とすが、皮脂膜を残して (選択洗浄機能)、さらには皮脂膜を強化する (バリア強化機能) ことができる洗浄料の開発を目指して研究を重ねられたわけです。その結果、保湿クリーム機能を持った洗浄料「RIMソープ」が誕生しました。

構造機能科学研究所の

RIMソープ & RIMエモール

●原料

RIMソープ	水 脂肪酸K (オレイン酸を主成分とする 脂肪酸カリウム塩) ソルビトール BG グリセリン
RIMエモール	炭化水素

RIMソープ & RIMエモールの保湿効果

RIMソープで洗うと5~10%up RIMエモールをぬると5~10%up

RIMソープで洗って → RIMエモールをぬると

乾燥肌もシっとり肌に!

約15%up

